

北陸近隣ブロックTAC研修会開催される 2月16日~17日



2月16日～17日、ホテル金沢にて北陸近隣ブロックTAC研修会が5県26JAのTAC関係者100名が出席し開催されました。1日目はJA全農より情勢報告として、今後のTACの活動について説明がありました。TAC活動の発展には、農家やJAを取り巻く環境変化に応じた支援、担い手育成に向けた取り組みの強化など見える活動の実践の必要性について話がありました。

基調講演では、コンサルタント会社ウィングルの塩山徳宏代表より「お客に好かれ、ファンを作る戦略」と題して講演がありました。「営業の質を向上させるには、相手先と会う機会をたくさん持ち人間関係を深めることが大切ということ。」「相手の立場を理解し徹底して聴く。」などTACの活動に結び付く話が数多くあり、大変参考になりました。

各県代表の事例発表では、本県からはJA福井市白崎氏が「加工商品の開発による伝統野菜の継承」と題し発表しました。福井の伝統野菜の1つである木田ちその抱える課題をふまえ、安定生産のために



木田ちそを使用した加工品の開発に取り組みました。加工品には「木田ちそサイダー」、「しそエキス」の他、27年度は新商品の「木田ちそサイダー飴」の開発が進んでいることも発表しました。

2日目は班別で分科会が行われました。限られた時間のなかでたくさんの意見交換ができました。他県の取り組み方などをたくさん聞くことができ、新たな発見や今後の活動の参考になる分科会でした。

TAC担当者の意識向上につながる有意義な時間で、さまざまなアイデアを共有しあいとても刺激のある大変よい研修会でした。



第4回TAC研修会開催！3月20日

3月20日（金）経済連総合センターにて第4回TAC研修会が開催されました。県下9JA、42名の参加がありました。今回の研修会では、経済連生産資材部秋田部長の挨拶、米穀情勢につづいて「農業関連諸制度について」中央会 地域農業支援室 小島室長より農業に関する交付金やならし対策等について説明がありました。

次に、JA福井県信連 人材開発課 次長 高橋哲郎氏より「農業経営アドバイザーと農業金融プランナーの概要について」説明がありました。福井県内のJAでは農業経営アドバイザーは4JA7名、農業金融プランナーは6JA11名ということでした。



つづいてJA福井県経済連 園芸特産課 大西課長より「水田園芸における販路拡大について」と題し説明がありました。加工用・業務用キャベツの契約的県連買取方式の概要等の説明もありました。

午後からの研修会では 富士通㈱ 農林水産ビジネス室 ソリューション販売推進室 熊谷友宏氏より「食・農クラウドAkisai（秋彩）」について説明がありました。データを活かした農業経営支援を通して担い手の所得向上に繋がりたいと話がありました。

今後もTAC研修会を開催していきますので、ご参加ください。



元気な「ふくい」の農業」推進大会開催される 2月13日

2月13日（金）敦賀市「プラザ萬象」にて平成26年度元気な「ふくい」の農業」推進大会が県内農家関係者約350名が出席し開催されました。

当日は、NHK解説員室 解説主幹 合瀬宏毅氏の「農業で進める地方創生」と題し講演がありました。その中で、6次化産業化の課題や、消費者は食に対してこだわりをもっていること、商品に対してストーリー性を求めていることなど、事例を交えて興味深い説明がありました。その他、「地域農業の特徴を生かした農業の発展に向けて」と題し、コーディネーターとして福井県立大学北川教授の他、法人の代表等4名のパネラーを迎え現在の取組内容と今後の展望について、パネルディスカッションがおこなわれました。この中で、新たな商品の開発や6次産業化への意欲等建設的な意見が交わされました。

出席者一人一人が今後の「ふくい」の農業」について考える有意義な大会でした。



多様な担い手が支える地域農業のあり方および米づくり研修会

2月28日（土）JA テラル越前本店で、「多様な担い手が支える地域農業のあり方および米づくり」研修会が奥越地区の担い手等100名が出席して盛大に開催されました。

目的は、今後奥越の農業を継続していく上で多様な担い手、地域住民、関係機関が一体となって次世代へつなぐための意識・方策を考えていこうというものです。

当日は、「多様な担い手によって発展する中山間地域の農業・農村」と題して福井県立大学北川教授の講演の他、経済連担い手対策課牧野専門員課長の「土壌分析結果に

基づく奥越の水田土壌の特徴」と題し、奥越地区は土づくりに熱心に取り組んでいる結果が分析結果に表われていること、高品質な米生産にむけて引き継いで土づくりに取り組んで欲しい旨説明がありました。

奥越農林総合事務所農業経営支援部土田主任からは、「おいしい米」づくりに向けてと題し「株を大きくとせず、最高茎数を400本/m²程度まで穂数は350本/m²までにする。」「出穂期は8月5日以降で夜間に通水し、夜間の温度を下げる」等具体的な説明がありました。出席者はいずれの研修でも熱心に聞き入っていました。



若狭地区米づくり研修会開催！3月5日



3月5日（木）JA わかさ農業活性化センターで若狭地区米づくり研修会が農家等90名が出席し開催されました。

第3回「食の都、若狭で競うコメ食味コンテスト」表彰の後、研修会に入り、嶺南振興局農業経営支援部田中主任より「平成26年産若狭の米づくり結果と対策」について説明がありました。

その中で、品質についてはハナエチゼン、あきさかりは比較的高いが、コシヒカリ、イクヒカリは低かったこと、コシヒカリは乳白粒が原因で等級落ちが出たことなどが

説明されました。次年度対策としては、「出穂後20日間の高温回避のためコシヒカリ、あきさかりの遅植え」や「生育前半の茎数制御」や「穂肥の追加施用」について説明がありました。

次に経済連担い手対策課牧野専門員課長から「水田土壌分析結果に基づく土づくり対策」と題し研修がありました。その中で、地力の指標となる、肥もちや腐植含量が不足している地域が見られることや、土壌養分が不足している圃場が見られ稲わらの鋤き込みと土づくり資材の施用に取り組んでほしい旨説明がありました。他、平成27年度若狭米生産振興方針について説明がありました。高品質な若狭米生産する上で有意義な研修となりました。



初荷出発式

【ＪＡはるえ】

トラックに納品する農機を
積み込み出発準備中です。

【ＪＡ福井市】

農家の農舎に入庫して
います。



1月8日にＪＡ福井市 西武農業施設センターにて、また1月15日ＪＡはるえ総合営農指導拠点事業所にて初荷が行われました。「初荷」と書かれた旗やのぼりをつけ、購入いただいた農家さんへ納品いたしました。

出発式では、ＪＡ・経済連・メーカーが一体となり推進に取り組むことを決意表明しました。



集落園芸拡大推進大会開催 3月12日

3月12日（木）集落園芸拡大推進大会がサンドーム福井にて、担い手農家等230名が出席し盛大に開催されました。

福井県農林水産部中村部長の挨拶の後、県生産振興課より福井県の園芸振興の現状と方向について説明がありました。

県外事例紹介では、「集落営農を核とした加工・業務用野菜の産地化への取組・目指せキャベツ5tどり」と題し、岐阜県ＪＡにしみの営農企画課 係長 富田一幸氏と、農事組合法人 大牧 代表理事 杉野廣氏より加工用キャベツの取組について具体的な説明がありました。

加工用キャベツに取り組んだ理由は、単価が一定で収支計画が立て易いこと、女性でも作業が可能（機械化が可能）とのことでした。また、高齢者、女性も作業に加わることで地域のコミュニティより深化されることを強調していました。

その他、おおい町笹谷営農協同組合の山本組合長より「プラス園芸による年間就労体制確立を目指して」と題し説明がありました。徹底的な機械化で作業効率が格段に進んだこと、集落の人が作業をした対価として集落にお金を戻していくことも大切という点について話がありました。



シーズン到来!

花粉症



春になると多くの人がつらい症状に悩まされる「スギ・ヒノキ科花粉症」。
毎年、花粉症の症状が出ている人は、
花粉が飛び始める前から早めに医療機関に相談することが大事です。
万全の花粉症対策と早めの予防をするために、花粉情報に注目していきしょう。

2015 花粉情報

北陸地方の飛散量：昨年の2倍（例年並み）

飛散開始時期：2月15日～2月20日

「日本気象協会 2015年春の花粉飛散予測（第3報）」

*花粉飛散に影響する1月～2月の気温次第では、飛散開始時期が早くなる可能性があります。



花粉症の症状とは？



主として、次のような症状が続くときには花粉症の可能性あります

くしゃみ

くしゃみは外から入った異物を外に出そうとする防御反射です。花粉症では、連続して何度も起こるのが特徴です。



鼻閉(鼻づまり)

鼻閉は肥満細胞から分泌された化学伝達物質により生じる鼻粘膜腫脹や血流悪化によって起こります。

重症化すると、両方の鼻が完全につまり、口呼吸になります。

水様性鼻汁(水性鼻漏)

鼻汁は呼吸をろ過、加湿する上で重要な役割を果たしていますが、花粉症ではその分泌が亢進し、鼻からたれたり、のどに流れたりします（後鼻漏）。鼻水は水様性で、いくら何でも出てきます。風邪でも初期は透明な鼻汁が出ることがありますが、数日で粘膿性に変わり、1～2週間で軽快します。

目の症状

激しいかゆみ、結膜充血、涙目など。

花粉対策の基本はセルフケア

〔室内〕

- ・窓の開閉は最低限にする。
- ・こまめな掃除を心掛ける。
- ・外に干した洗濯物の花粉をよく落とす。
- ・睡眠不足、ストレス、飲み過ぎには注意する。

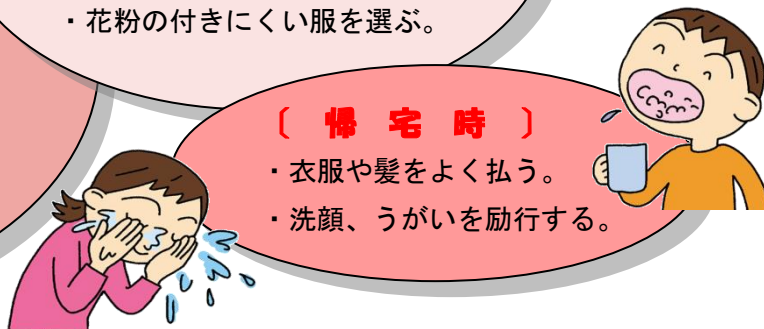
〔外出時〕

- ・花粉情報に注意する。
- ・花粉の多い日は控える。
- ・マスク、めがねで防備する。
- ・花粉の付きにくい服を選ぶ。



〔帰宅時〕

- ・衣服や髪をよく払う。
- ・洗顔、うがいを励行する。



花粉飛散 要注意日

前日または当日未明まで雨が降り、その後天気が急に回復して晴れ、南風が吹いて気温が高くなる日



花粉症治療の中心となる「薬物療法」

使用する時期や症状に応じて「初期療法」「導入療法」「維持療法」が行われます。

初期療法

花粉飛散開始の2週間ほど前からアレルギー性鼻炎治療薬を服用する治療法です。症状が悪化する前から服用し続けることで、シーズン中の症状をやわらげることができます。

導入療法

症状が強くなってから始める治療で、強い症状を和らげるために、抗ヒスタミン薬だけでなく、ステロイド薬の一時的（1週間以内）な服用や、局所ステロイド薬（点鼻薬）なども必要になります。

維持療法

初期療法や導入療法で症状が抑えられた状態を保つ治療で、症状が軽くなってもアレルギー性鼻炎治療薬の服用をおすすめします。



セルフケアと早めの受診で花粉症シーズンを快適に過ごしましょう。

J A 福井県厚生連